

夏は過ぎましたが、子どもたちは半袖半ズボンで外出して、元気に遊んでいるのではないでしょうか。外で遊ぶと、虫に刺されて赤く腫れたり、草木や毛虫の毛でかぶれたりして、よく湿疹ができます。かゆいの手でかくと、その周囲に急速に水ぶくれができる、汁が出たりします。これが「とびひ」です。

とびひは俗名。正式な病名は伝染性膿瘍疹。細菌による病気で、黄色いかさぶたができることもあります。細菌の付いた手で、虫刺されの痕などを触つたり、かいたりすることでも感染を起こすのです。火事の飛び火のように、あつとい

皮膚の病気あれこれ

岩崎泰政

②

とびひ



イラスト・霜野美香

細菌伝染 あつという間

細菌がたくさんいます。これが、とびひを引き起こしてしまいます。

季節に関係なく、かさぶたができるタイプもありますが、夏に子どもたちに多くできるのは、急に水ぶくれができるタイプです。黄

色ブドウ球菌がつくる毒素が皮膚に付き、あつという間に水ぶくれをつくつて、広がっていきます。

う間に周囲に広がり、離れたところにも飛び散ることから命多めされたようです。子どもたちは鼻水を手で

ぬぐつたり、鼻を触つたりする癖がありますよね。実は鼻の穴の入り口付近に

治療では抗菌薬を塗ります。炎症があればステロイド薬を塗った上で、傷を保護する軟こうを付けたガーゼで覆います。他の場所に伝染させないためです

が、無意識にかきむしられることも防ぎ、正常な皮膚が再生されやすくなりま

す。しかし、とびひは難敵です。細菌の感染なので、抗

菌薬を飲まないとなかなか

治りません。最初によく使

う抗菌薬が効かない場合が

あります。その場合は、別

の薬に変更します。

虫に刺された時などは、

とびひを防ぐため、シャワ

ーなどで皮膚を清潔に保

ち、手洗いも徹底しましょ

う。とびひになつた子ども

は、きょうだいに移さない

よう、最後に入浴させる

とよいでしょう。

(岩崎皮ふ科・形成外科院

長=福山市)